

男子マイルリレー 北日本インカレのご報告・日本インカレの抱負

2024年8月19日

はじめに

先日の北日本インカレにて、男子マイルリレーは3:10.76の4位入賞でした。今季3度目の部記録更新とともに、日本インカレA標準記録を突破と果たしました。本文書では、日頃よりご支援をくださっているOBOGの皆様へ感謝を込め、本結果に至るまでの経緯と併せて、結果のご報告を差し上げます。

本大会までの経緯

今シーズンの男子マイルチームは、2022年以来の日本インカレ出場をターゲットに、練習に取り組んできた。

2021-2023 シーズン

男子マイルチームは、2021年に、当時の標準記録(3:16.00)を突破し、初の日本インカレ出場を果たした。その後、2022年には当時の部記録を0.45更新し(3:12.88)、前年に引き続き日本インカレにも出場した。しかし、2023年は、日本インカレの標準記録が3:10.80に引き上げられたのに対し、タイムで追いつくことができず、3年連続出場を逃した。また、主力選手のケガも重なり、シーズンベストも宮城県出身メンバーで記録した3:14.11に留まった。

2023-2024 冬季・シーズン

雪辱を果たすべく、2023-2024短距離PCの阿部を中心に冬季練習に励み、各々の走力を向上させてきた。各メンバーの状況としては、春先に佐藤が48.88をマーク。その後、東北インカレでは400mHで阿部が優勝、B標準を突破したほか、400mでは菅野が49.14のUBで4位入賞、800mでは千葉が5位入賞と、好調が続いた。また、同大会では200mで西尾が21.66と快走し、層の厚さにも自信がついていた。

東北インカレでは、教育実習中の齊藤を欠く中、雨天にもかかわらず、当時の部記録である3:12.32をマークし、仙台大と0.40差の2位となった。そのため、チームの成長を感じるとともに、大きな悔しさを味わうレースであった。その後、齊藤が48.80を記録し復帰、7月上旬に宮城県選での標準突破を目指した。

宮城県選では、前日の個人400mにて、佐藤が48.21のSB、千葉は48.87のPBと、好調を示した一方で、シーズンのエースであった阿部が脚の不調で欠場となった。マイルは

3:11.71 と、再び部記録を更新したものの、士気とパフォーマンスを上げることができず、落胆の結果となった。以後は、ラストチャンスの北日本インカレに向けて、七大戦や東医体といった他の大会との調整を両立しつつ調整するメンバーと、強化練を積むメンバーに分かれた。

北日本インカレ5日前までに、西尾、阿部が脚の不調で離脱した。これにより、出走可能メンバーは4人に絞られ、走順も確定した。この4人中、佐藤は強化練中に脚に違和感を覚え、状態が不透明だったのに加え、菅野も七大戦以後動きが上がっていなかった。千葉は好調だったものの、直前に東医体を控えるタフな日程で疲労が蓄積されていた(千葉は東医体で 48.80 のPB)。この中、齋藤を中心にチームの雰囲気維持し、本番に臨んだ。

本大会の報告

北日本インカレでは、決勝メンバー全員が、個人種目に出場せず、リレーに専念した。また、予選では、脚に不安のある佐藤に代わり、110mHで 14.32 と部記録を更新した齋藤を起用した。

予選

1組 2着

齋藤 (M1) - 菅野 (3) - 齋藤 (4) - 千葉 (6) 3:15.02

1走の齋藤は、決勝に向けて出力を出しつつも、脚を温存しリラックスした走りを見せた。2着でバトンパス。

2走の菅野は、無理のないペースで前の東海大北海道との差を詰め、ラストまで安定した走りを見せた。2着でバトンパス。

3走の齋藤は、持ち前のスピードを活かし前半200m地点でトップに立った。最後は疲れたものの、崩れずに2着でバトンパス。

4走の千葉は、前後の差を把握しながらレースを進め、スパートはかけず2着でゴール。

決勝

4位

齋藤 (M1) - 菅野 (3) - 千葉 (6) - 佐藤 (M2) 3:10.76

各走者のラップ(400m地点の線): 48.05 - 47.75 - 47.61 - 47.35

1走の齋藤は、後半を意識しつつも、走力を活かし前半からとばした。最後まで動きを崩さずに勢いをもって走り切り、2~3着付近でバトンパス。4人中最速の走りだった。

2走の菅野は、他チームが前半をオーバーペースで入る中、冷静な走りを見せた。ラストまで2位集団につけ、5着でバトンパス。

3走の千葉は、スピードのある他チームに対し、出遅れないペースでついていった。後半に持ち前の体力とスパートで前との差を詰め、4着でバトンパス。

4走の佐藤は、ラスト勝負を前提に前半をゆったりと入った。後半は切り替え、前との差を詰めたものの、わずかに届かず4着でゴール。

決勝走者の感想・抱負

1走 齊藤宥哉 (M1)

本大会は、日本インカレの標準記録を突破する最後のチャンスでした。レース展開は、1走の段階である程度決まってしまうので、不甲斐ない走りは絶対に出来ないと思い、序盤から攻める覚悟をしました。結果、ラップタイムはシーズンベストの48.1で、標準突破に多少なりとも貢献することができました。日本インカレにむけて、個人のタイムをあと0.5秒短縮できるように、さらなる研鑽に励みます。

2走 菅野涼太 (3)

日頃からご支援いただいているOBOGの方々にこのような報告ができることを大変嬉しく思っております。

北日本インカレは標準を突破する最後のチャンスであったため、お世話になった先輩方への恩返しのためにも、必ず標準を切ると決意して走りました。宮城県選から1ヶ月で約1秒伸ばすという、端から見たら信じ難い結果も、走った4人の想いの表れだと感じています。

また目標達成には応援、サポートの力も不可欠だったと感じています。標準を切った瞬間の歓声を聞いた時、こんなにも多くの人に応援されていたこと、その応援に応える結果を出せたことを光栄に感じ、胸が熱くなりました。

個人の走りとしては、ラップタイム(47.75)を見ると最低限の走りと言わざるを得ず、喜びきれない面があります。今回のレースにも反省点があったことを前向きに捉え、日本インカレでは個人としてはタイムを0.5縮めベストな走りをする事、チームとしては更なる記録更新を目標に、あと1ヶ月精進いたします。

3走 千葉琢巳 (6)

この度はこのような形でOBの皆様にご報告することができ、大変嬉しく思います。今シーズンは昨季叶わなかった日本インカレ出場を目標にチーム一丸となって努力してまいりました。

北日本インカレはラストイヤーの私にとって最後のチャンスであり、失敗できないという思いとともに絶対に標準を切るという気概で臨みました。

先頭が大会記録ペースでレースを進める中必死でくらいつき、4走へバトンを託すことができました。

電光掲示板に記録が表示され、仲間とともに喜んだときの感動は一生忘れないと思います。

今後はこの記録に満足することなく、日本インカレでの更なる記録更新へ向けてやるべきことを淡々と行なっていく所存です。

4走 佐藤千仁 (M2)

本大会で日本インカレの標準突破が叶ったことを、素直に嬉しく思います。標準記録からわずか0.04の記録でしたので、多くの方々の応援の力あってこそその突破だったと確信しております。

3走までのメンバーが、粘りながらレースを作ってくれたにもかかわらず、目前で表彰台を逃してしまいました。ラップベストも出せず、自分の走りに対しては悔しい気持ちが大きいです。

今回私は、リレーだけではなく、個人の400mでの優勝も目標に準備してきました。しかしながら、強化練習中に右脚を痛め、個人は棄権せざるを得ず、マイルリレーの出場も危ぶまれました。そのため、チームの士気向上はおろか、自分自身すら鼓舞できず、不甲斐ない時間が続きました。

そこで私を奮い立たせてくれたのは、評定で過ごした6年間でした。

必死に追いかけた先輩方、支え合った同期、信じてくれた後輩がいたからこそ、恩返しの走りをする覚悟を決めることができました。

私は、誰よりも強く、東北大マイルの力を信じています。残された時間を大切に過ごし、マイルチームの更なる飛躍に貢献します。

前短距離PC・現短距離PCからひとこと

前短距離PC 阿部竜胆 (3)

自分のPCの目標として「マイルで全カレに行く」ことを掲げてチーム作りを1年間行ってまいりました。東北インカレから3度部記録を更新し、3度目の正直で全カレ標準を切る事が出来て大変嬉しく思います。

自分自身に関しては怪我によって走ることが出来ず、悔しい気持ちはありますが、一緒に練習してきた仲間が全カレを決めてくれて感無量です。今回の結果で自分のやってきたことは間違っていなかったと思えました。走ってくれたメンバーに感謝したいと思います。

全カレに向けて、まずは怪我を治して、本番で個人、マイル共にベストを出せるような日々の練習に励んでいきたいと思えます。

現短距離PC 神近凜太郎 (2)

全カレ出場を決めた瞬間はついに標準をきった興奮と、やっと標準がきれた安堵が同時に襲ってきたようでした。

全カレ標準を突破できたのは、卒業していった先輩方も含めたみんなの努力が報われた素晴らしい瞬間だったと思います。日本インカレでも実力を発揮し良い結果良いタイムをお届けできるように我々も頑張りますので応援よろしく願いいたします。また、この結果が一度きりのものではなく、来年以降も継続して日本インカレに出場できるように若い世代の強力な選手ががどンドン出てくるようなチームづくりをしてまいります。私個人と

しても、メンバーに入れずスタンドでレースを見届けることしかできなかった悔しさを糧にこれからの練習に励んでいきます。

今後の抱負

9月19日(木)から9月22日(日)に神奈川県川崎市のUvanceとどろきスタジアム by Fujitsuにて開催されます、日本インカレに向けて、チーム一丸となって練習に取り組みます。部記録更新はもちろんのこと、七大学記録(大阪大学, 3:09.81, 2019)、並びに東北学生記録(仙台大学, 3:08.04, 2003)の更新、決勝進出を狙って各々のタイム短縮、バトンパスのブラッシュアップに努めます。

また、来年の日本インカレにも出場が見込まれる中、下級生をサポートメンバーとして帯同させることで、チーム全体の士気を上げ、長期的な成長にも注力します。

再度吉報をお届けできますよう、男子マイルチーム一同、精一杯努力いたします。改めまして、平素より多大なご支援、ご声援に心より感謝申し上げますとともに、今後とも引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。